

高瀬神社 社報

# 越中一宮



第20号

平成21年1月1日

越中一宮高瀬神社

<http://www.takase.or.jp/>

撮影：南部写真館 南部 榮氏



## 年頭講話

## 「年頭の所感」

宮司 藤井秀弘

新年明けましておめでとうございます。

平成二十一年の年頭にあたり、先ず以て、謹んで皇室の弥栄と氏子・崇敬者各位の御繁栄をお祈り致します。

一年三百六十五日、歳月の流れは年を重ねるごとに早くなるように思います。平成の御世も二十一年目となりましたが、そのような歳月が流れたという実感が無いのは私だけではないと思います。昨年は天皇陛下御即位二十年の慶賀すべき年を迎え、国民等しく心からお祝い申し上げた年でありました。本年は皇居前広場での奉祝行事をはじめ、全国各地で奉祝大会が開催されると聞いております。

二十年という歳月から思い起こすのは、伊勢の神宮の式年遷宮です。

皆様はすでに募財をお納めになり、その行末に関心がある事柄だと思えます。遷宮の準備は着々と進んでおり、現在は内宮の五十鈴川に架かる「宇治橋」の工事がおこなわれています。本年十一月三日に完工、「渡行祭」が斎行される予定です。その他の工事も平行して実施されており、あらためて皆様方のご奉賛に深く感謝申し上げます。

先般、テレビの番組で奈良の唐招提寺改修工事についての放送がありました。改修・修復の設計施工に関わる人たちが、宮大工や瓦職人の人たち一人一人が、「天平文化」伝承のために、自己の持つ熟練の技を余すことなく發揮して、全力で仕事をする姿に感動をおぼえました。更には自己の持つ最高の技術に添えて、神仏に祈りを捧げながら仕事をしている姿が画面から伝わってきて、見ている私の心を強く打ちました。自分の腕（技術）に溺れず、謙虚な気持ちで神仏にすがり、加護を得る。まさしく名工とはこのような人々のことなのだと思います。更に完成した寺を見上げて棟梁が一言、「本音で言える自分になりたい。」と言われました。私なりに解釈すると「お世辞やウソでごまかすような仕事はしたくない。そんなこと、神仏はお見通し。己の腕が泣く。」というようなことではないかと思えます。この言葉の意味は深く、全てを経験し尽くした人の言葉で、人として目標となる言葉だと思いました。

伊勢の神宮においても、職人さんたちが毎日、力の限り、心を尽くして作業に打ち込んでいます。我が日本の親神様である伊勢の神宮の御姿を未来永劫に残し、伝統を継承してゆくためにそれぞれの立場で頑張り式年遷宮を支えています。私たち神職や氏子・崇敬者のもとより、全国の企業や法人に至るまで一億国民総奉賛を目標に活動が展開されています。一人でも一社でも多くの奉賛者を得るためには、それぞれの家庭が円満で、各会社が業務順調であることが望ましいわけであります。私たち神職は日々、氏子・崇敬者の多幸や、会社・法人の発展を祈り、社会の平安を祈念していますが、大切な

ことは、それぞれの立場（仕事や習い事など）で何事においても全力を尽くし、それぞれが神様に誠心こもる祈りを捧げることではないかと思えます。特に感謝の祈りは大切です。

新しい年の年頭には、その年の幸福を神々に祈ります。神社でも歳旦祭や元始祭を斎行します。神社ばかりではなく民間の伝承もあり、形式はいろいろですが、全国各地に民俗芸能として神楽や能舞などの形となつて残っています。個人的な祈りから村全体の集団的祈りまで形は異なりますが、神前に参拝し、祈る心は同じであります。

神前にお参りして、祈念した後には、神様にお供えした神饌をお下げて直会（たまたまひ）を行い、恩頼をいただくことが、慣わしとなっています。お正月は神饌のなかでも特に「お神酒」をたくさんいただきます。お目出度いときに飲む「お神酒」は格別のものですが、調子に乗りすぎて失敗しないようにしていただきたいと思えます。今回はこの「御酒」についてお話しすることになっています。

今年も良き年でありますようご祈念申し上げます、年頭の所感と致します。





## 「新年のご挨拶」

奉賛会長 西 田 東 作

新年明けましておめでとうございます。

平成二十一年新春を迎え、謹んで皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

昨年は第六十二回伊勢神宮式年遷宮奉賛会富山県本部が結成されてから三年目を迎え、募金活動も愈々本格的になった年でありました。県本部長の私と富山県神社庁長であり、当神社宮司でもある藤井宮司さんとは募金のお願いや諸会議のために一緒に出かける機会も数多くありました。全国会議にも度々出席される多忙な宮司さんの働きぶりには余人には代えがたい

優れた能力と体力が備わっていると感じて致しました。今年もこの調子でご奉仕していただきた

いと願っております。

藤井宮司さんのように心身ともに健全な姿になるにはどうすれば良いのか、私なりに考えてみましたところ、ご自分の努力というところはもちろんですが、一番肝心なところは祖先のDNAが宮司さんに引き継がれ、それが全身に宿り、体を動かし、健康な体を形成させている。また、体だけではなく、目に見えない部分についても祖先たちの御加護によって守られ、導かれているということ。藤井宮司さんは藤井社家六十八代目の御当主であり、長い歴史と伝統の中でお育ちになりました。先代宮司さんの銅像落成記念に発行された冊子、『神のまにまに』の中に藤井家の歴史が載っていますが、実に立派な歴代の宮司方が千数百年間の長きに亘って、高瀬神社を守り、この地域の平安を祈ってこられたの

であります。

先代宮司さんの墓参のために藤井家の墓所にうかがった際、驚いたのは、字も読めないくらいに古くなっている先祖代々の夫婦墓から先代宮司夫妻のお墓まで見事に整然と並んでいたことです。お盆の墓参の様子は『社報(第十五号) 宮司講話』に詳しく語られておりますが、これほど祖先崇拜を厳粛に継続しておられる家は他では見当たりません。我が家でも見習って、十数年前に親戚と相談して墓所を改修し、祖先崇拜をより丁寧にしています。

このようなきことから考えますと、我々日本民族が繁栄してきた原点は藤井宮司さんが実践しておられる「神を敬い、祖先を崇める」生活にあるのではないかと思うのです。

今の世の中は、目先の事に心を奪われて、『敬神崇祖』の心が薄らいでいます。ご先祖が築き上げてきた大切な心や生活の原点を見失っていると思われてなりません。昨今の想像もつかない事件や事故の報道を見て強く感じます。今こそ日本伝統の精神を見直して、生活を改めるべき時ではないでしょうか。



幸いにして高瀬神社を崇拝する私たち氏子・崇敬者は藤井宮司さんというお手本があります。この姿に倣い、自分自身のあるべき姿を見出せるよう努力していただきたいと思えます。このことは私たちに健全な心身を取り戻させ、末永い御加護(見守り)をいただけることとなります。乱れた世相を修復し、私たちの生活の原点を取り戻すためにも、これに新しき年の目標と定め、皆様とともに日々精励することを大神様にお誓いして年頭の挨拶と致します。

(株式会社ゴールドウィン代表取締役会長)

# 祭事録

## 例祭

九月十三日午前十時より、氏子・崇敬者五十名の参列により、例祭が斎行されました。

宮司祝詞奏上、巫女の「浦安の舞」につづき、コーラスグループ「ソット・ヴォーチェ」の先導で「高瀬神社奉賛歌」が奉唱されました。



祭典終了後、神社に御尽力いただきましたお二人に宮司より感謝状が授与されました。

併せて斎行され、御英霊に感謝の誠心を捧げました。

(感謝状授与)

香川真有美殿 (南砺市)



野村 幸子殿 (南砺市)

## 献茶祭

秋晴れの十月二十六日、高瀬神社献茶奉賛会による「第三十五回献茶祭」が斎行され、表千家流の荒木美津夫氏のお点前により、ご神前に濃茶・薄茶が供えられました。

また、齋館と参集殿においては、古儀茶道藪内流福嶋慶子社中・清沢福来子社中により茶席が設けられ、多くの茶道愛好家で賑わいました。



## 新嘗祭



十一月二十三日午前十時より、新嘗祭が斎行されました。

本年は永井正夫さんと農業協同組合長が奉幣使を務め、砺波地区農業協同組合協議会から幣帛が供えられ、井波地域中核農業士協議会(片田功会長)からは献穀田で収穫された「コシヒカリ」と「白酒」が供えられました。

また、篤農家には表彰状、献穀田奉耕者には感謝状が贈られました。

(篤農家表彰)

斉藤 幸範殿 (南砺市)

上田 祐治殿 (小矢部市)

(感謝状授与)

吉川 順一殿 (南砺市)

**株式会社ゴールドウイン**  
代表取締役会長 西田 東作

**セندان電子(株)**

代表取締役会長 武田 修  
代表取締役社長 武田 武美  
砺波市庄川町五ヶ四四〇  
TEL(〇七六三) 八二一五一三〇

祝儀料理  
鮮魚・仕出し **福光屋**

南砺市山見一七二〇  
TEL(〇七六三) 八二一五〇八二(アスマモ店)  
八二一〇七〇六(在出し部)

越中一宮高瀬神社指定  
**南部スタジオ**

南砺市山下二七七  
TEL(〇七六三) 八二一〇一三〇  
富山店 富山市五福六区一八四五一六  
TEL(〇七六) 四三二一八五五

宝石・記念品  
**あづちや**

南砺市本町三十四八  
TEL(〇七六三) 八二一〇三六六

迎春



### 剣道大会

九月十四日、「第四十六回奉納剣道大会」が開催され、砺波地区の小中高校生の約二〇〇名の剣士により団体戦と個人戦の熱戦が繰り広げられました。先ず奉告祭が執り行われ、前年度団体の部優勝校の井波中学校の二名により日本剣道形が奉納されました。

尚、試合結果は次の通りです。

#### 『団体の部』—敬称略—

##### ▽小学生男・女

①井波剣道スポーツ少年団

②晴武館

##### ▽中学生男子

①井波中学校

②出町中学校

③庄西中学校

##### ▽中学生女子

①井波中学校

②出町中学校

##### 『個人の部』

##### ▽小学生男子

①澤 宗馬 (井波)

②岩崎 大成 (砺波)

③吉田 康生 (福野)

石井 晃 (晴武館)

##### ▽小学生女子

①藤崎美奈里 (井波)



②野原 果鈴 (井波)  
③沖田 美咲 (庄川)  
中嶋 美咲 (福野)

##### ▽中学生男子

①島田 裕己 (般若中)

②松田 尚之 (井波中)

③川邊 雄斗 (出町中)

##### ▽中学生女子

①山田千菜都 (井波中)

②山本麻紗子 (井波中)

③小西 真実 (福光中)

##### ▽高校生男子

①中村 法貴 (砺波高)

②棚田 直樹 (福野高)

③金谷 康史 (福野高)

##### ▽高校生女子

①荒井美由紀 (砺波高)

②松井 里紗 (福野高)

③松山 香織 (砺波高)

北川 綾乃 (福野高)

### さといも茶会

去る十一月三十日、高瀬遺跡保存協会(竹村武夫会長)主催の「里芋おはぎ茶会」が開催されました。

斎館と参集殿で「井波茶道同好会」による茶席が設けられました。

収穫されたばかりのもち米とサトイモとを一緒に炊き、あんこをつけた「おはぎ」約五〇〇個が「里芋おはぎを作る会」の作り手六名により作られ、茶席に出されました。



井波茶道同好会の皆様

### 迎春

婚礼着付

ノビアデサロンみたに

南砺市北川一八五二  
TEL(〇七六三)八一〇四三三

繕御所落雁本舗

河内屋菓子舗

南砺市本町一の三四  
TEL(〇七六三)八一〇四〇二

ブライダルサロン

アマノ

高岡市大手町二一八(定塚町通り)  
TEL(〇七六六)二四一四二四

株林クリーニング

南砺市本町三丁目一四番地  
TEL(〇七六三)八一〇二八九

全国にあなたの花をお届けします

花キューピット

ミナミフラワーショップ

アミ子店 TEL(〇七六三)一三二六三八八  
FAX(〇七六三)一三二六三八八

# 参拝日誌抄

(敬称略)

(平成二十年九月～十一月)

## 「九月」

- 一日 普明会教団福野支部
- 三日 明治神宮 権宮司 宮崎重廣 普明会教団福野支部
- 四日 功霊殿奉斎会役員会 十六名
- 七日 全国一の宮巡拝会 副代表世話人 塩原輝昭 読売茶会
- 十日 南砺市遺族会井波支部 (清掃奉仕) 南砺市遺族会福野支部 (清掃奉仕) 氏子清掃奉仕(村総出) 日枝神社 宮司 平尾旨明



読売お茶の会  
席主 橋爪孝仙先生  
(写真提供 読売新聞北陸支社)

## 「十月」

- 十四日 第四十六回奉納剣道大会 (奉告祭)
- 十九日 神社庁砺波支部役員
- 二十二日 南砺市交通安全協会 (秋の交通安全祈願祭)
- 二十四日 白山神社平寿会(春日井市) 宮司 河村米光 以下二十六名
- 二日 鈴木 寿興(奉納参拝) 高橋アキラ(奉納参拝)
- 七日 富山県立砺波高等学校 (合格祈願)
- 八日 神宮少宮司 高城治延 熱田神宮 権宮司 渡邊 肇 (職員研修) 以下八十名
- 九日 名古屋ハイヤータクシー 交通共済協同組合
- 十日 大地主神社 宮司 大森重宜 以下十八名
- 十二日 井波町内会連合会歩こう会 九十名
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 十七日 富山社交倶楽部 六十名

## 「十一月」

- 十九日 普明会教団高岡支部
- 二十七日 愛知県神社総代会熱田支部 二十八名
- 二十八日 熱田神宮 権宮司 宮田理博
- 二十九日 神社庁砺波支部 (職員研修) 以下八十名 (神宮大麻頒布始奉告祭)
- 三日 國學院大學 教学事務部長 岡田幹雄
- 四日 福町神明宮 宮司 大峯智之 以下二十四名
- 六日 三重県神社庁 理事 高田喜博 以下八十名
- 十一日 犬山市・各務原市観光協会 二十名
- 十二日 三重県神社庁 理事 村尾憲一 以下四十名
- 十三日 立正佼成会(清掃奉仕)
- 十八日 愛知県神社総代会名東支部 四十名
- 二十日 城端中学校 生徒四名 (課外授業)

# 迎春

**田島のし店**  
 砺波市本町七一―四  
 TEL(〇七六三)三三二二五二〇

おいしいお菓子の研究所  
**(株)ミツシュローゼ**  
 代表取締役社長 杉原 徹  
 TEL(〇七六三)二二一三八八八

**牧印刷株式会社**  
 南砺市理休三三三三一  
 TEL(〇七六三)一六二一〇一一二  
 FAX(〇七六三)一六二一三三三

**(株)ジオミックス**  
 広告事業部 P R プランニング  
 小矢部市下中一三三八  
 TEL(〇七六六)六七七一八六七

看板とイベント・宣伝の  
**オーバル**  
 砺波市庄川町金屋一三〇五  
 TEL(〇七六三)八二四二二三

# ご結婚おめでとうございます

本年六月から十一月まで婚礼の御儀を執り行われた皆様です。(挙式日、時間順)

(六月)

二十二日

中田 辰也様  
裕加江様

二十八日

中山 順一様  
由希様  
小林 佳史様  
知代様

(七月)

五日

柴田 章様  
亜紀子様

(九月)

六日

林 壮真様  
洋子様

武島 正英様  
香織様

二十一日

大島 博史様  
真理様

二十七日

荒木 修様  
恵子様

(十月)

四日

津田雄一郎様  
忍様

水野 真様  
佐和子様

五日

廣川 賢三様  
沙恵様

十一日

野上 裕介様  
真矢様

佐竹 徹様  
美由紀様

十三日

内藤 利幸様  
絵美様

山口 和博様  
彩乃様

柴田 康貴様  
恵子様

石橋 哲也様  
貴子様

吉田 周平様  
美穂様

宮崎 圭様  
奈緒子様

二十五日

今村 大介様  
香織様

日尾 俊昭様  
佳世様

(十一月)

一日

中島 喜昭様  
照美様

二日

小西 和博様  
知代様

三日

島田 佳直様  
智子様

八日

林 涼介様  
芳月様

十五日

藤井 康夫様  
沙智子様

二十二日

谷口 幸大様  
未央様

ご新郎ご新婦の末永いご多幸とご両家益々の御繁栄をお祈り申し上げます。

**結納式**

九月十五日

堀田 陽介様  
衣里子様

迎春

となみ野を便利に結ぶ...

**チューリップ交通株**

本社 八丁一六九 砺波営業所 二四一三三  
貸付支店 八丁一八八 旅行部 八二七二一  
TEL 〇二二〇一六九五〇七

蓄暖 エコキュート 販売・施工  
**(有) 森田電気商会**

南砺市高瀬五七三  
TEL 〇七六三 八二一〇六九一

神社仏閣建築設計施工  
創業文政年間  
**森田建設株式会社**  
代表取締役 森田市五郎

小矢部市鷺島一七五  
TEL 〇七六六 六七一〇〇六九

青果・食材  
フルーツギフト  
**中村屋**

南砺市山見四四二一  
TEL 〇七六三 八二一〇〇三五

あなたの街のでんきやさん  
**ニューイングランドたかた**

南砺市山下(井波行政センター前)  
TEL 〇七六三 八二一〇二七七



# 献穀田だよ

## 抜穂祭

九月二十一日、井波地域中核農業士協議会（会長片田功氏）による「抜穂祭」が、南砺市井波軸屋の吉川順一氏（本年奉耕者の献穀田で齋行されました。齋主祝詞奏上の後、五名の早乙女が水田に入り、約六十名の関係者が見守る中、「コシヒカリ」の稲が刈り取られました。収穫された稲は十一月二十三日の新嘗祭で御神前にお供えされたほか、伊勢の神宮へ奉獻されました。



## 初穂曳奉仕

去る十月十五日、「第三十七回初穂曳」が三重県伊勢市で行われ、井波地域中核農業士協議会の片田功会長・奉耕者の吉川順一氏・浦権欄宜の三名が参加し、献穀田で収穫した「コシヒカリ」の稲束を「一日神領民」として伊勢の神宮へ納めました。天候に恵まれ、神恩感謝と更なる五穀豊穰をお祈りしました。また、前日には二見興玉神社を参拝し、御鹽田神社、神宮御園、神宮神田を見学いたしました。



## 授与品案内

「幸福守」



初穂料  
八〇〇円

「千支一刀彫（丑）」



初穂料  
一五〇〇円

「千支守（丑）」



初穂料  
五〇〇円

「火除け守」



初穂料一五〇〇円

## 祭事暦

《平成二十一年》

一月一日	歳旦祭
一月三日	元始祭
一月七日	昭和天皇祭
一月二十五日	天神祭
二月三日	節分祭
二月十一日	紀元節祭
二月十七日	祈年祭
三月八日	鎮火祭
三月二十日	春季天皇祭
四月三日	神武天皇祭
四月十日	春季祭
四月二十九日	昭和祭
六月十日	祈年穀祭
六月十九日	風宮例祭
六月三十日	夏越大祓
七月十九日	稲荷社例祭
七月二十一日	人形感謝祭
八月十六日	除熱祭
九月十三日	中禮祭
九月二十三日	例祭
十月四日	秋季皇霊祭
十月十七日	村まつり
十月二十五日	神嘗奉祝祭
十一月三日	献茶祭
十一月十三日	明治節祭
十一月十五日	神明宮例祭
十一月二十三日	七五三祝祭
十二月十三日	新嘗祭
十二月二十三日	天長節祭
十二月三十一日	師走大祓
全	除夜祭
◎ 毎月一日・十三日	月次祭
◎ 毎月十三日	交通安全祈願祭



御案内

節分祭 (豆まき)

二月三日

午後三時齋行

御家族お揃いで  
御参列下さい。

元服祝 (男子)

十五歳 (平成七年生)

元服とは、一人前の男として重要な責任と義務を負い、社会の仲間入りを果たす年齢を意味します。強い身体と精神力を持った「益荒男」として雄々しく男らしく成長してほしいと祈る人生儀礼です。

髪上祝 (女子)

十三歳 (平成九年生)

髪上とは、古来より神社へ詣で初めて「かんざし」を髪にあてる儀式を行っておりました。

平成21年 厄年

本年は次の通りです。

(男性)

- 25歳 前厄 (昭和61年生)  
本厄 (昭和60年生)  
後厄 (昭和59年生)
- 42歳 前厄 (昭和44年生)  
本厄 (昭和43年生)  
後厄 (昭和42年生)

(女性)

- 19歳 前厄 (平成4年生)  
本厄 (平成3年生)  
後厄 (平成2年生)
- 33歳 前厄 (昭和53年生)  
本厄 (昭和52年生)  
後厄 (昭和51年生)
- 37歳 前厄 (昭和49年生)  
本厄 (昭和48年生)  
後厄 (昭和47年生)

戌の日 (安産祈願)



- 1月 5日・17日・29日
- 2月 10日・22日
- 3月 6日・18日・30日
- 4月 11日・23日
- 5月 5日・17日・29日
- 6月 10日・22日
- 7月 4日・16日・28日
- 8月 9日・21日
- 9月 2日・14日・26日
- 10月 8日・20日
- 11月 1日・13日・25日
- 12月 7日・19日・31日

腹帯のお祓いも行いますので  
ご持参下さい。

「大和撫子」と日本女性を称えてきた言葉が示すように、心清らかで勇氣・機転・情愛を持ちあわせた大人の女性に成長してほしいと祈る人生儀礼です。

奉納

○神号「国常立之尊」  
茨城県筑西市  
鈴木 寿興殿

十月二日  
○細密画「縁起和龍」  
東京都東久留米市  
高橋アキラ殿

十月二日

○「懸崖菊」  
南砺市安清

向井 清明殿

十一月二十三日

○「神饌米」

南砺市

岩倉 和弘殿

編集後記

新年明けましておめでとうございませう。

昨年は、東海北陸自動車道全線開通、また全国一の宮巡りの流行により例年になく大勢の参拝者で社頭賑わいました。

本号に奉賛会長の西田東作氏よりご寄稿を頂戴しました。厚く御礼を申し上げます。

平成二十一年も氏子・崇敬者の皆様には、高瀬の大神様の大威稜によりまして益々お栄えになりますようご祈念申し上げます。

# ブライダル相談会及びフェア情報

1月

S	M	T	W	T	F	S
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2月

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28

3月

S	M	T	W	T	F	S
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

■ フェア
 ■ 10時・12時・14時 リハーサル体験
 ■ 9時～16時 相談会
 ■ 13時～17時 平日相談会

# 和装体験フェア

予約優先

2月1日(日)  
AM10:00~PM5:00

AM10:00~ 神前式説明会  
PM 2:00~ 模擬結婚式

“縁結びぜんざい” サービス  
どうぞお気軽にお越し下さい

婚礼商品展示・お見積相談 和装試着・カツラあわせ など



- 宮司 藤井 秀弘
- 権宮司 藤井 秀嗣
- 禰宜 齊藤 直己
- 全 河合 正登
- 権禰宜 浦 泰宏
- 巫女 杉本 絵里香
- 全 南部 有希
- 全 藤井 友希
- 事務員 黒田 三津子
- 囃託 岩倉 友子

## 謹賀新年

平成二十一(己丑)年  
皇紀二六六九年

発行日 平成二十一年二月一日  
発行所 越中一宮高瀬神社社務所 〒933-0252 富山県南砺市高瀬一九一  
TEL 〇七六三三八二〇九三三  
FAX 〇七六三八二二三〇四  
編集人 浦 泰宏  
印刷所 牧印刷株式会社